

白鷺教育会に思うこと — 会長就任にあたって —

会長 進 藤 正 洋 (昭43)

このたび、高岡会長の後を引き継ぐことになりました姫路支部の進藤です。白鷺教育会の創始120周年という歴史を考えると、たいへんな責任を感じます。

昨年来のコロナ禍により、通常の活動が困難な状態が続いておりますが、白鷺教育会の130年、140年につながる長期展望のもとで、会員みなさまとともにこれからの活動を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

教師10年もすれば、人生そのもの・・・

白鷺教育会について、ある先輩のたいへん印象深い言葉を思い出します。

「教師であり、会員であることを私はいつも誇りにしてきた。退職した今も自分は教師だと思っている。会員名簿は教師としての自分の社会的存在を確かめるものだ。名簿の名前は、地域社会で自分が生きている証だ。教師10年もすれば、人生そのもの・・・」

教職人生50年を超えた今もなお、非常勤で教壇に立っている私は、この言葉を思い出すことがあります。時代の変化も感じますが、白鷺教育会とともに教師の誇りを大切にされた先輩教師の生き方がようやくわかってくるような気がします。

地域に豊かな教育文化を・・・

私はこれまで、小・中学校に加え、大学や教育研究所、文化会館など、多彩な学びの場で勤めてきました。そして、ピアジェの「子どもは家庭で育ち、学校で学び、地域社会で大人になる」という言葉から、子どもの発達段階と教師の役割、生涯学習、家庭や学校の教育力、地域の教育環境や教育資源など、子どもを育てる教育文化について広く考えてきました。また、このたびのコロナ禍では、大学のオンライン授業を経験し、画面だけで授業することに大きな疑問を持ちました。科学技術は進歩しても、やはり対面による人間のふれあいにこそ、教育の原点があるのではないのでしょうか。

このような経験から、教育文化の振興をめざすには、身近な自然や歴史、暮らしや子育てなど、地域の文化的特性に立脚した幅広い教育支援活動が大切と考えられます。また、それは、私たちの教育英知の継承、発展活動でもあると思っております。

白鷺教育会には「研鑽修養に努めて、兵庫県教育文化の振興に寄与するとともに、会員相互の親睦を図る」(会則第2条)という大きな目的があります。この目的に向かうため、一人一人の会員の教師人生の充実と、地域の教育文化の向上に貢献していくことができる白鷺教育会、いわば「古くて、新しい白鷺教育会」をめざしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。